

6
上
聖徒伝 130

「神の報いを 侮るな」

列王記第二12章(歴代誌第二24章) ヨアシュ王の生涯

アウトライン

0. イントロダクション

I. ヨラム～アハズヤの時代 II 歴21～23章

II. 善王ヨアシュ 24章1～16節

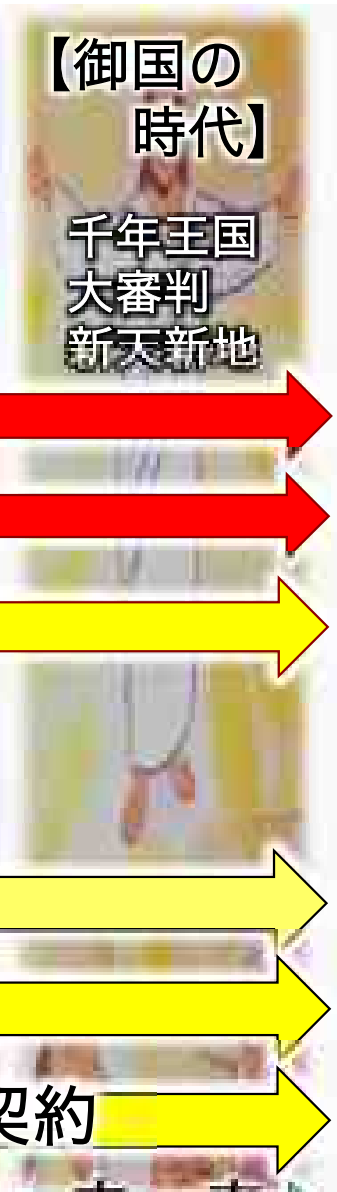
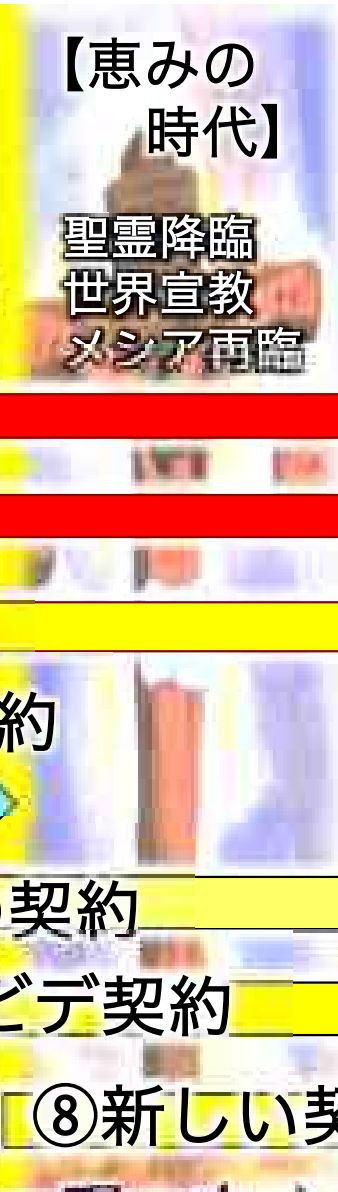
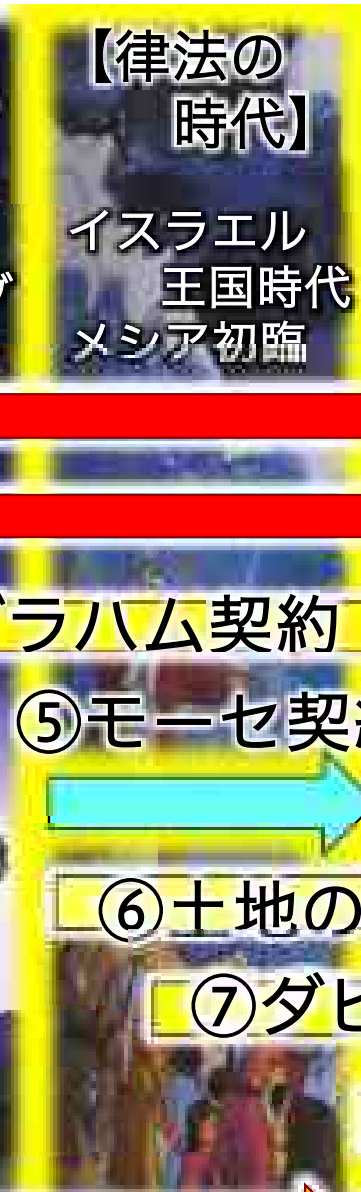
III. 悪王ヨアシュ 24章17～27節

IV. まとめと適用

罪を知り、救いの恵みを味わい知ろう



荒野となつめやし



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

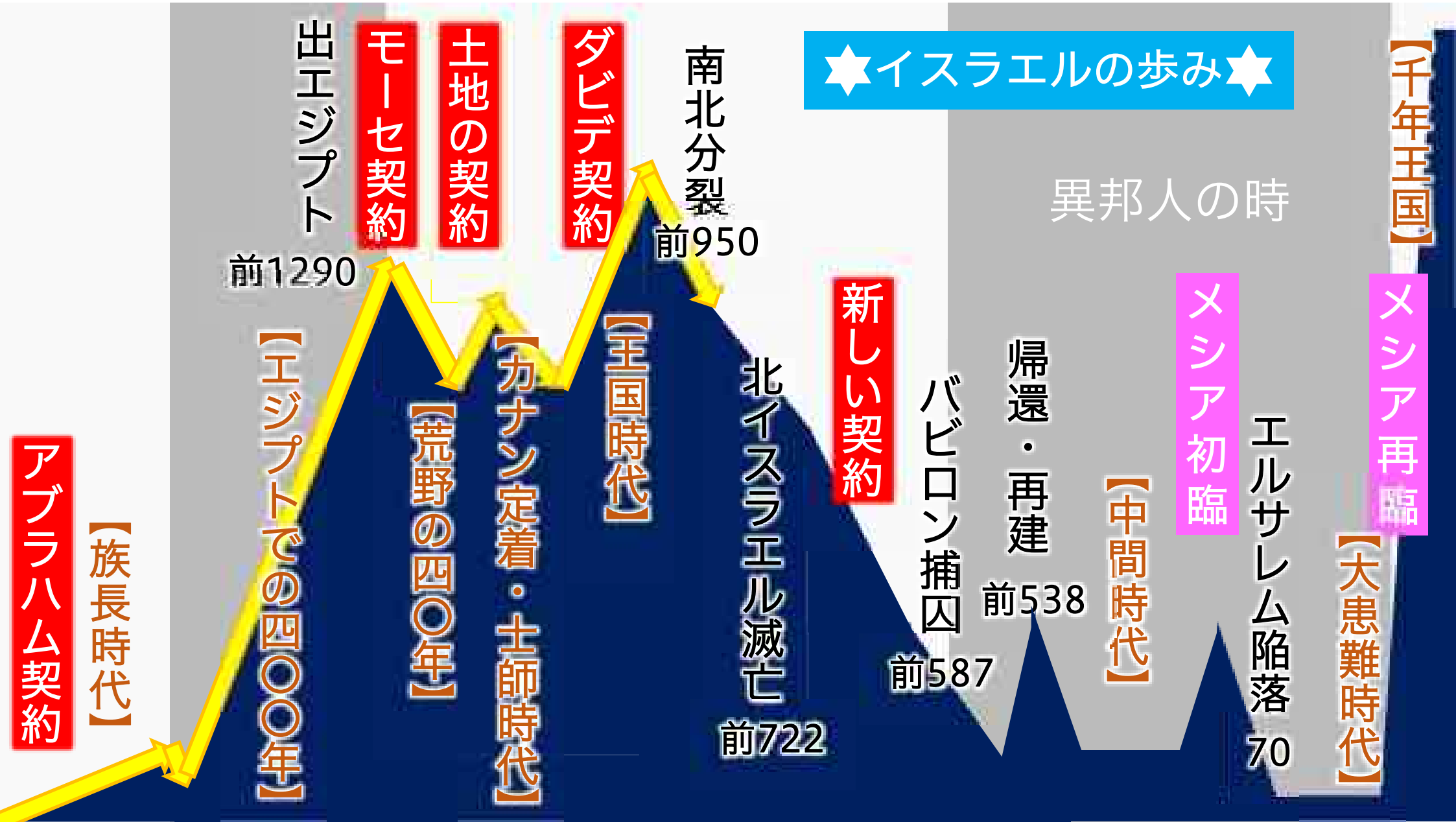
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

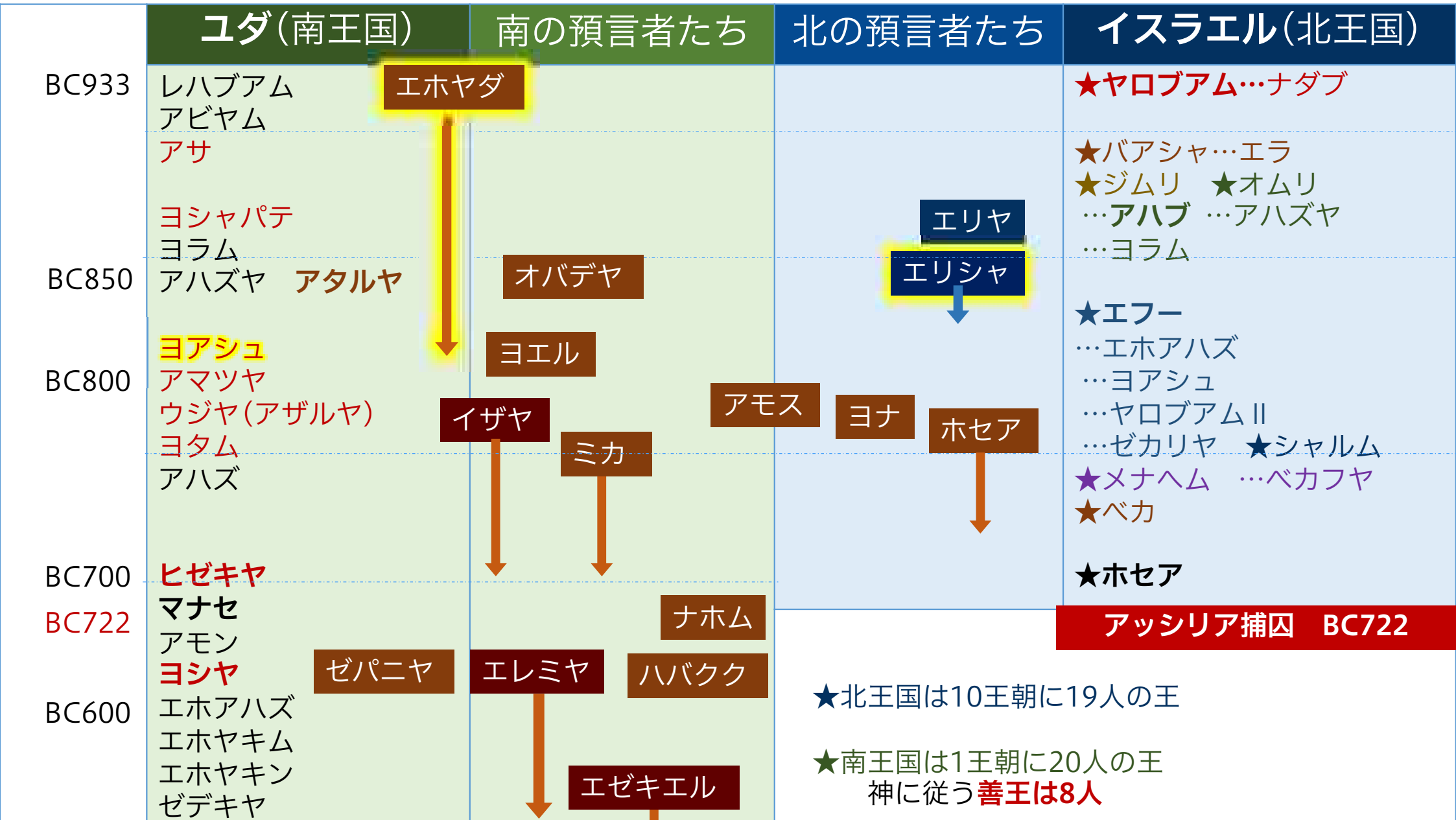
未来

★イスラエルの歩み★



列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)	
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)
第二	17〜22章	預言者エリヤ (アハブ王の生涯)	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章		オバデヤ ヨエル	エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア
	2〜13章	預言者エリシャ	ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ	
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで	アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	アッシリア捕囚 BC722
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで	エレミヤ エゼキエル	★北王国は10王朝に19人の王 善王はなし ★南王国は1王朝に20人の王 神に従う善王は8人
		バビロン捕囚 BC586		



★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

【エリヤとエリシャ】 II 列王記

- 北王国の王アハブは、バアル信仰を国教にし、神に反逆する最悪の時代をもたらした。
- アハブの子孫である、ヨラム王、アハズヤ王、アハブの妻イゼベルは、エリヤの預言通り、悲惨な死を遂げた。
- 南王国に嫁いでいたイゼベルの娘アタルヤは、王子たちを殺し、自ら王となるが、赤子だったヨアシュー人が生きのびた。祭司エホヤダにより、アタルヤは討たれ、ヨアシュが、南王国の正統な王に即位した。



北王国 イスラエル

南王国 ユダ

エリヤ

エリシャ

北王国最悪の時代 🦠

【エフー王朝】

エフー

エホアハズ

ヨアシュ

28年

17年

~~イゼル~~ 🦠

【オムリ王朝】

オムリ王朝は断絶
アハブー族は全滅

オムリ

VII アハブ 🦠

~~ヨム~~

12年

22年

12年

アハズヤ
2年

~~アツヤ~~

6年

アサ ♡

IV ヨシャファテ ♡

ヨアシュ ♡

ウジヤ

41年

25年

40年

~~ヨラム~~

8年

~~アスヤ~~

7年

エホヤダ



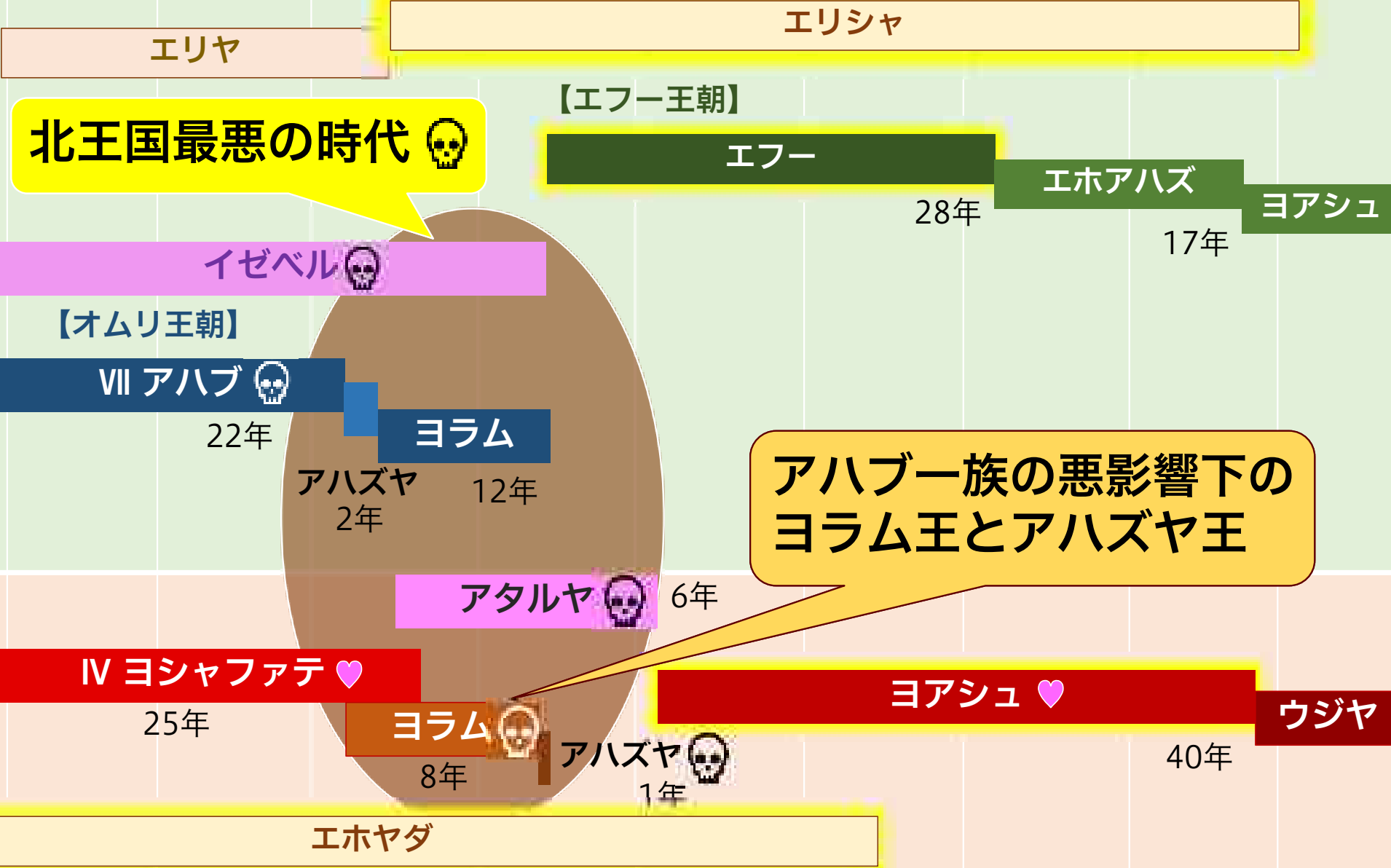
Ⅰ. ヨラム～アハズヤの時代

歴代誌第二 21～22章

乾季のワジ(水無川)

北王国イスラエル

南王国ユダ



北王国最悪の時代 (Skull icon)

アハブ一族の悪影響下のヨラム王とアハズヤ王

南5 ヨラム 兄弟殺しのヨラム II 歴代誌21:1~6

■ 善王ヨシャファテの後、長子ヨラムが即位(32歳)。

→ヨラムは即位すると、兄弟たちを殺害

★ II 歴代21:6

「彼はアハブの家の者がしたように、イスラエルの王たちの道に歩んだ。アハブの娘が彼の妻だった*からである。彼は【主】の目に悪であることを行った。」

*北王国のアハブとイゼベルの娘アタルヤを妻に。

■ヨラムは、アタルヤを通し、アハブ、イゼベルのバアル礼拝を南王国に持ち込んだ。



南5 ヨラム **ダビデ契約** II 歴代誌21:7

しかし、【主】は**ダビデと結ばれた契約***のゆえに、ダビデの家を滅ぼすことを望まれなかった。主はダビデとその子孫に常にともしびを与えると約束されたからである。

***ダビデ契約**が、南王国の王の系譜を守った。

→**ダビデの家が続き、子孫にメシアが誕生。**

■アハブの悪影響でバアル礼拝に陥った南王国。

最悪の王、ヨラム、アハズヤの時代にも、

主の約束ゆえに守られ続けた。



ダビデ契約とメシア預言

■歴代誌第一 17:10~12

今、わたしはあなたに告げる。

【主】があなたのために一つの家を建てる、と。

あなたの日数が満ち、あなたが先祖のもとに行くとき、わたしはあなたの息子の中から、あなたの後に**世継ぎの子**を起こし、**彼の**王国を確立させる。

彼はわたしのために一つの家を建て、わたしは**彼の**王座を
とこしえまでも堅く立てる。

ダビデ契約とメシア預言

■歴代誌第一17:13~14

わたしは**彼**の父となり、**彼**はわたしの子となる。

わたしの恵みを、わたしはあなたより前にいた者から取り去ったが、**彼**からはそのように取り去ることはしない。

わたしは、わたしの家とわたしの王国の中に、**彼**をとこしえまでも立たせる。**彼**の王座はとこしえまでも堅く立つ。』」

ダビデの子孫に誕生するメシアが永遠の王国を打ち立てる!!

南5 ヨラム 神の裁き II 歴代誌21:8~20

- ヨラムを、主は周辺国の反逆や侵略で裁いた。
- ヨシャファテの代には属国だったエドムが反逆。ペリシテ、アラビアがエルサレムを侵略し、財産を奪い、ヨラムの妻子をも連れ去った。
- ヨラムは、不治の内臓の病で苦しんで死んだ。誰にも惜しまれず、王たちの墓には葬られず。
→享年40歳。治世はわずか8年。

ヨラムの裁きを、主はエリヤを通し預言されていた。



エリヤのヨラムへの預言

歴代誌第二 21:12~15

あなたの父祖ダビデの神、【主】は、こう言われる。『あなたが、あなたの父ヨシャファテの道にも、ユダの王アサの道にも歩まず、

イスラエルの王たちの道に歩み、アハブの家が淫行を行わせたように、ユダとエルサレムの住民に淫行を行わせ、また、あなたよりも善良な、あなたの父の家の兄弟たちを殺したので、

見よ。【主】は大きな災害をもって、あなたの民、あなたの子たち、あなたの妻たち、そしてあなたの全財産を打つ。

あなた自身は、悪性の内臓の病気をわずらい、ついにはその病のために、日に日に内臓が外に出て来るようになる。』」

南6 アハズヤ | アハズヤの死 II 歴代誌22:1~9

- 一人残っていたヨラムの末子アハズヤが即位。
→ 母アタルヤが助言者となり、悪を行わせた。
- アハズヤは、助言に従い、伯父である北王国のヨラムと共に、共通の敵アラムに戦をしかけた。
- ヨラムは傷を負い、アハズヤも敗走。
その隙にエフーが北の王となり、ヨラムを殺害。
さらに、アハズヤも捕らえられ、殺された。
→ 22歳で王となり、わずか1年の治世だった。



南7 アタルヤ ヨアシュ II 列22:10~23:21

- アタルヤは、実子アハズヤの死を知ると、アハズヤの子たち、ユダの王の一族を滅ぼした。
- ただ一人、赤子だったアハズヤの子ヨアシュがかくまわれ、生き延びた。
- ヨアシュが7歳になったとき、祭司エホヤダが、近衛兵を味方につけて決起。アタルヤを打った。
→ヨアシュが、ユダの王に即位した。



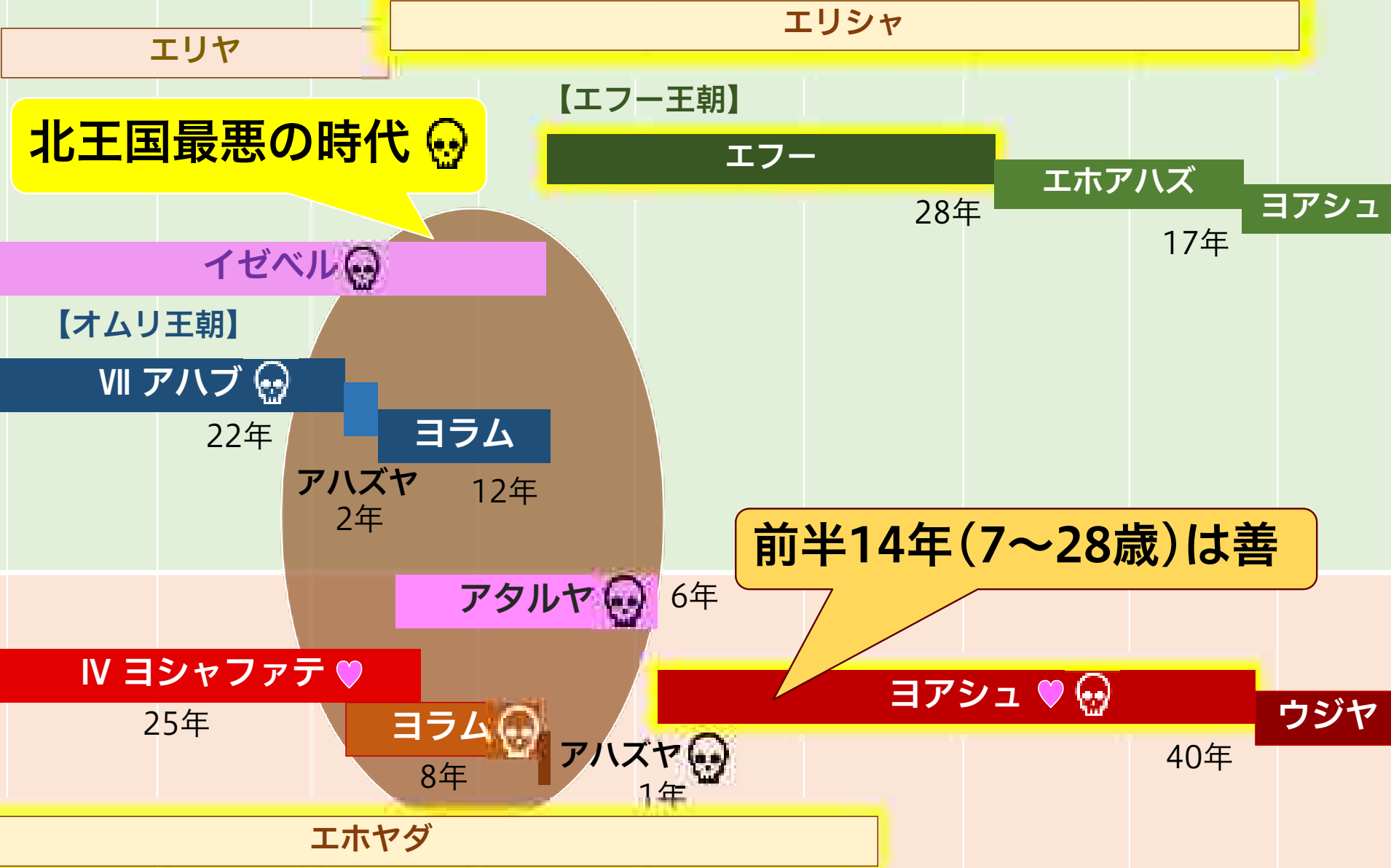


II. 善王ヨアシュ 歴代誌第二 24章1～16節

雨季のイスラエル

北王国イスラエル

南王国ユダ



北王国最悪の時代 🦴

前半14年(7~28歳)は善

南 8 ヨアシュ 即位 II 歴代誌24:1

ヨアシュ*は七歳で王となり、エルサレムで四十年間、王であった。彼の母の名はツィブヤ*といい、ベエル・シェバ*出身であった。

*“主(ヤハウエ)によって与えられた”

*“はらこ・(魚の)卵”

*アブラハム、イサクが住んだオアシスの町。

南の境界の町。「ダンからベエル・シェバまで」



南8 ヨアシユ 祭司エホヤダ II 歴代誌24:2~3

ヨアシユは、祭司エホヤダ*が生きている間*は、
【主】の目にかなうことを行った。

エホヤダは彼に二人の妻を迎えさせた。息子たちと娘たちが彼に生まれた*。

*“ヤハウエは知っている”

*ヨアシユが、7~30歳まで。14年間。

■ヨアシユを守り、アタルヤを討ったエホヤダが、
ヨアシユの摂政、後見人としてユダを治めた。

*エホヤダが、王として独り立ちする時が来た。



南8 ヨアシュ 王の命令 II 歴代誌24:4~5

その後のことであつた。ヨアシュは【主】の宮を新しくすることを志し、祭司とレビ人を集めて、彼らに言った。「ユダの町々へ出て行き、あなたがたの神の宮を毎年修繕するために、全イスラエルから金を集めて来なさい。あなたがたは急いでそのことをしなければならない。」ところが、レビ人は急がなかつた。

■若い未熟な王の、実情を考慮しない命令に…。



南8 ヨアシュ 空の宝物倉 II 歴代誌24:6~7

そこで王は、かしらであるエホヤダを呼んで、彼に言った。「なぜあなたはレビ人に要求して、【主】のしもべモーセとイスラエルの会衆があかしの天幕*のために定めた税金を、ユダとエルサレムから持って来させないのですか。」

それは、悪女アタルヤとその子らが、神の宮に押し入り、【主】の宮の聖なるものをすべてバアルの神々のために用いていたからである。

*ここでは、エルサレム神殿のこと。

→アタルヤの散財で逼迫していた宮の財政。
困窮していた祭司、レビ人たち。

民の信仰の状況が
祭司の生活に直結



南8 ヨアシュ 王の布告 II 歴代誌24:8~9

王が命令すると、人々は一つの箱を作り、それを【主】の宮の門の外側に置いた。

彼らは、神のしもべモーセが荒野でイスラエルに定めた税金*を【主】のもとに持って来るように、ユダとエルサレムに布告した。

*律法の定める種々の税金・ささげもの。

■単なる税金の催促ではない。

➔モーセの律法に立ち返ることが促された。

➔民の信仰の回復、リバイバルが起こった!!



南8 ヨアシュ 献金 II 歴代誌24:10~11

すべての首長たちとすべての民は喜んでそれを持って来て、あふれるまで箱に投げ入れた*。

その箱がレビ人によって王の役所に運ばれるたびに、多くの金額があることが確認されると、王の書記と祭司のかしらに仕える管理人が来て箱を空にした。そして、それを持って行って元の場所に戻した。彼らは毎日このように行い、多くの献金を集めた。

*あり余るほどささげた、荒野での幕屋建設を想起させる出来事。(出エジプト記36:5)



南8 ヨアシュ 宮の回復 II 歴代誌24:12~13

王とエホヤダは、これを【主】の宮の奉仕の働きをする者に渡した。彼らは、【主】の宮を新しくするために石切り工と大工を雇い、さらに、【主】の宮を修繕するために鉄と青銅の職人を雇った。

仕事をする者は仕事をし、彼らの手によって修復作業が進んだ。彼らは、神の宮を元のとおり建て、これを補強した*。

*ヨラム、アハズヤ、アタルヤの代に、傷んでいた神殿が、しっかりと修繕、補強された。

→ユダの信仰の回復を象徴するもの。



南8 ヨアシュ 保たれた信仰 II 歴代誌24:14

工事が終わると、彼らは残った金を王とエホヤダの前に持って来た。その金で、【主】の宮の用具、すなわち、儀式や全焼のささげ物の用具、深皿、金銀の器が作られた。エホヤダが活着ている間、【主】の宮では絶えず全焼のささげ物が献げられた*。

*全焼のささげ物は、律法の定める最高のささげ物。

➡エホヤダの生存中、ユダの民の信仰は保たれた。



南8 ヨアシュ エホヤダの死 II 歴代誌24:15~16

エホヤダは老年を迎え、長寿を全うして死んだ。死んだとき、彼は**百三十歳***であった。

彼はダビデの町に**王たちとともに葬られた***。彼がイスラエルにおいて、神とその宮に対して良いことを行ったからである。

***この時代には、驚異的な長寿。**

➔ダビデ70歳。モーセ120歳より長い!!

➔ヨラム王即位の時には116歳だった!!

➔ソロモンの全盛期を知っている!!

***王ではない(摂政)にも関わらず、破格の扱い。**



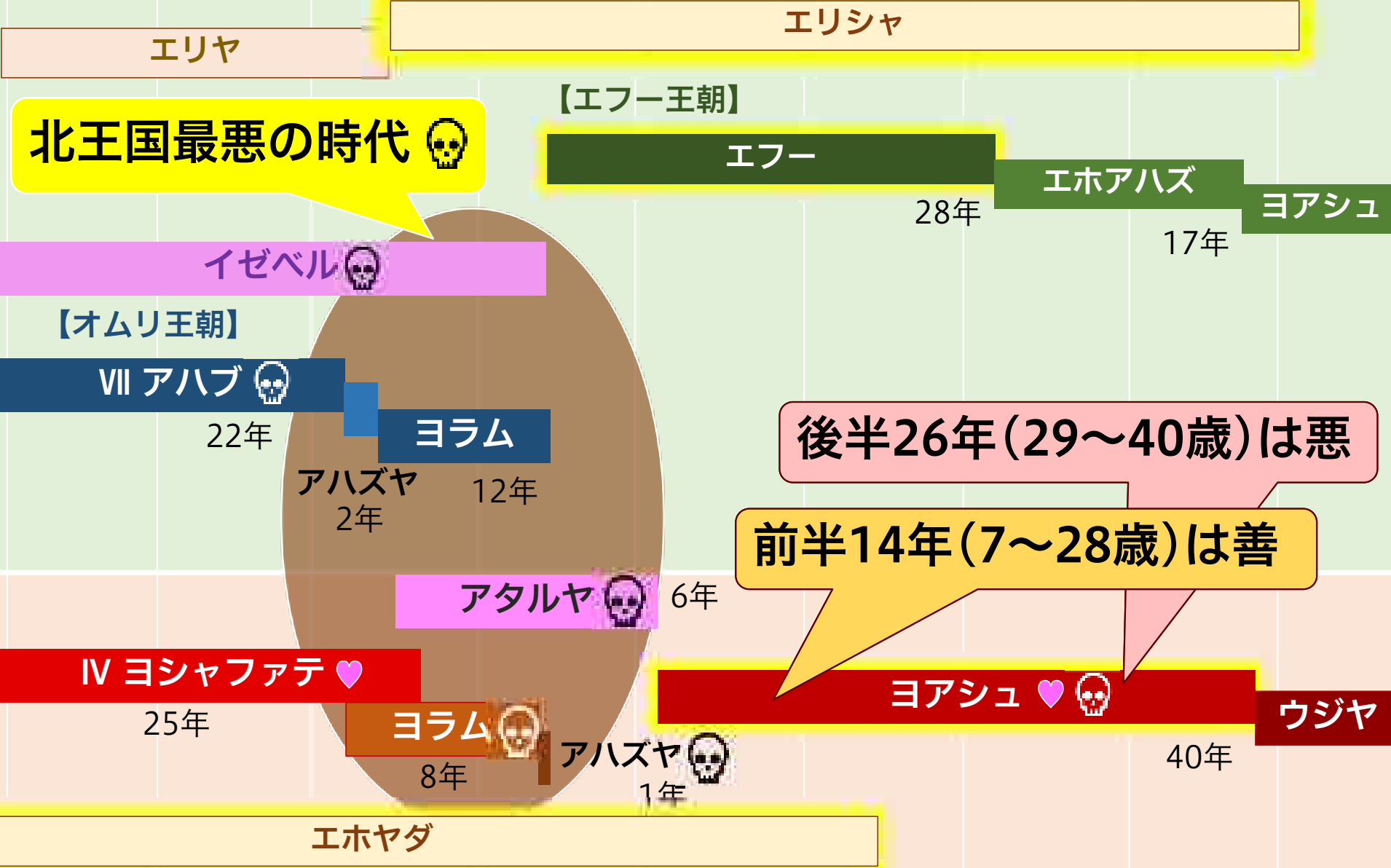


III. 悪王ヨアシュ 歴代誌第二 24章17～27節

乾季のイスラエル

北王国イスラエル

南王国ユダ



北王国最悪の時代

後半26年(29~40歳)は悪

前半14年(7~28歳)は善

南8 ヨアシュ 墮落 II 歴代誌24:17~18

エホヤダの死後、ユダの首長たちが来て、王を伏し拝んだ。それで、王は彼らの言うことを聞き入れた。

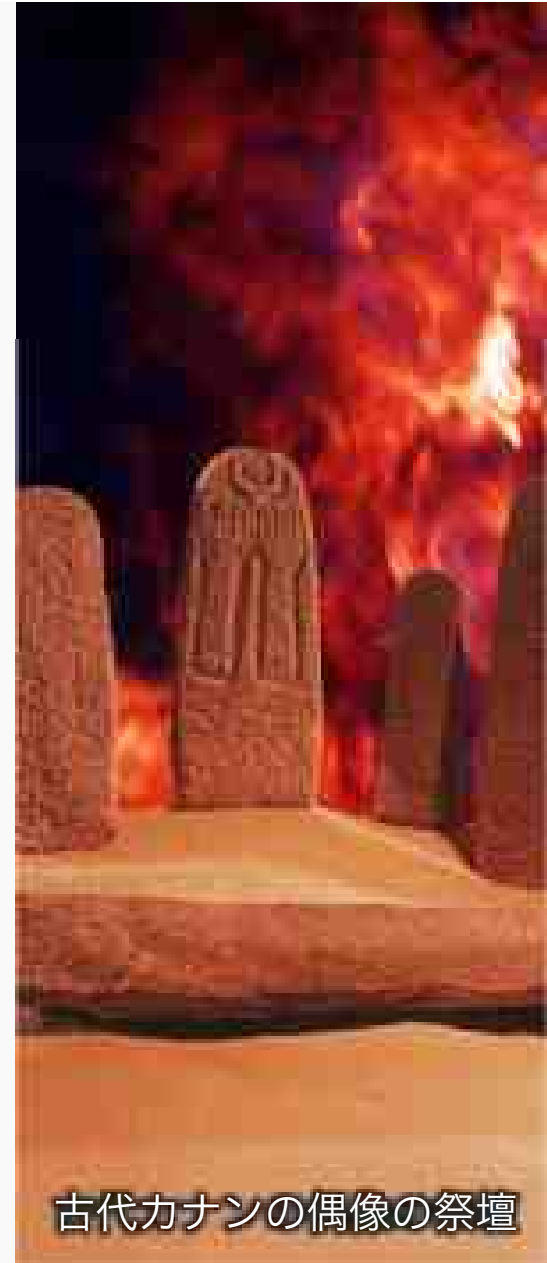
彼らは父祖の神、【主】の宮を捨て、アシェラ*と偶像に仕えた。彼らのこの罪過のゆえに、御怒りがユダとエルサレムの上に下った。

*バアルと対になる女神。性的儀式を伴う豊穡の神。

■偉大な信仰者の死後、急速に悪化したユダ。

■民には、物分かりのよい王？

➡主の評価は真逆。ヨアシュの墮落の後半生へ。



古代カナンの偶像の祭壇

南8 ヨアシュ 預言者たち II 歴24:19

彼らを【主】に立ち返らせるため、預言者たちが彼らの中に遣わされた。預言者たちは彼らを戒めたが、彼らは耳を貸さなかった。



南8 ヨアシュ **ゼカリヤ** II 歴代誌24:20

神の霊が祭司エホヤダの子ゼカリヤ*をおおった。彼は民よりも高いところに立って、彼らに言った。「神はこう仰せられる。『あなたがたは、なぜ【主】の命令を破り、繁栄を逃がす*のか。』あなたがたが【主】を捨てたので、主もあなたがたを捨てられた*。」

*“主は覚えておられる” …捕囚期に同名の預言者が。

*律法の原則。守れば祝福。破れば呪い。

*裁きの原則。主を捨てる者は、主に捨てられる。

➔主の恵みを生涯拒み通した者は、
主の恵みの一切を奪われる時が来る。



南8 ヨアシュ ゼカリヤの死 II 歴24:21~22

ところが、彼らは彼に対して陰謀を企て*、王の命令によって、【主】の宮の庭で彼を石で打ち殺した*。

ヨアシュ王は、ゼカリヤの父エホヤダが自分に尽くしてくれた誠意を心に留めず、かえってその子を殺した。ゼカリヤは死ぬとき、「【主】がご覧になって、責任を問われますように*」と言った。

*偽証人を立て、律法で裁き、死罪に定めたか？

■最悪の形でエホヤダの恩を仇で返したヨアシュ。

*ゼカリヤは、裁きを主の手に委ねて死んだ。



南8 ヨアシユ 裁き II 歴代誌24:23~24

年が改まるころ、アラムの軍勢がヨアシユに向かって攻め上り、ユダとエルサレムに来て、民の中から民の指導者たちをすべて滅ぼした*。そして、分捕り物をすべてダマスコの王のもとに送った。

アラムの軍勢は少数で来たが、【主】が非常に大きな軍勢を彼らの手に渡されたのであった。それは、人々が、その父祖の神、【主】を捨てたからである。こうして、ヨアシユにさばきが下された。

*偶像礼拝を推進し、ゼカリヤを殺した指導者たち。

➡ヨアシユ王は、重大な後ろ盾を失った。



南8 ヨアシユ | ヨアシユの死 || 歴代誌24:25

軍勢が、重傷を負ったヨアシユを捨てて離れて行ったとき、彼の家来たちは、祭司エホヤダの息子たちの血のゆえに謀反を企て、寝台の上で彼を殺した。彼は死んで、人々は彼をダビデの町に葬ったが、王たちの墓には葬らなかった。

■重症を負い、見捨てられ、家来たちに寝台の上で殺され、王たちの墓には葬られなかったヨアシユ。



南8 ヨアシュ 反逆者たち II 歴代誌24:26~27

彼に謀反を企てたのは次の者たちである。アンモン人の女シムアテの子ザバデ、モアブ人の女シムリテの子エホザバデ*。

ヨアシュの子たちのこと、彼について語られた多くの預言のこと、神の宮の修復のことは、『王の書の注解』にまさしく記されている。彼の子アマツヤが代わって王となった。

*謀反を企てたのは、ヨアシュが取り立てた、モアブ、アンモンの血を引く偶像崇拝者たち
➔ヨアシュの罪に、主は正確に報いを返された。





IV. まとめと適用

罪を知り、救いの恵みを味わい知ろう

【主に仕える偉大な祭司・エホヤダの生涯】

- エホヤダは、神殿建設後の、王国の絶頂期に生まれた。
- ソロモン死去の時、21歳。以降、王国の分裂、レハブアムの墮落、アサ、ヨシャパテによる回復の時代、ヨラム以降の深まる混沌…。王国の栄枯盛衰、民の墮落と信仰の回復をつぶさに見てきただろう。
- ヨアシュを匿った時、109歳。アタルヤと対決したのは116歳。享年130歳。モーセ以上の長寿は、信仰者への神の祝福のしるし。

人の罪の深さ、神の約束の確かさをエホヤダはよく知っていた

【エホヤダの信仰に学ぼう】

- ソロモンの偶像礼拝の罪に始まった王国の分裂と混乱。
祭司の立場で、王と民の信仰の振幅に振り回される一方で、神の確かな約束の上に置かれている確信をも深めてきただろう。
- ダビデの系譜の断絶の危機に、主はエホヤダを用いられた。
困難な使命に、エホヤダは、主を信頼して命をかけた。
- エホヤダは、息子ゼカリアを、確かな信仰者として育て上げた。
使命を全うしたゼカリアは、死を間近に、裁きをすべて主に委ねた。

ただ主を信頼し、与えられた使命に生きる。それだけだ。

【信仰者ヨアシュのとんでもない不信仰を反面教師に】

- 神殿の再建を呼びかけ、ユダに信仰復興をもたらしたヨアシュ。
しかし、エホヤダの死後、王自身が偶像礼拝に呑み込まれていった。
ヨアシュは、恩人エホヤダの息子、神の人ゼカリアを謀って殺した。
- 私の「信仰」は、私自身のものとなっているだろうか？
キリストの体なる教会に堅く組まれた建材の一つになっているか？
他者の信仰に寄りかかるだけの、脆弱なものではないだろうか。
優れた指導者もグループも、あなたの信仰を保証してはくれない。

私の信仰は、誰でもない、自分自身の内に築かれる

【信仰者が深い罪に陥る時】

- 信仰は、他者に誇るものではない。私に誇れるものなど何もない。数知れぬ信仰者が積み上げてきた山に、私はちょこんと立っている。土台は、使徒たち。そしてゆるがぬ礎は、主イエスご自身だ。
- 救いとゆるしは、主の約束と憐れみによる一方的なもの。現実には、何も変わっていない、罪にまみれた私がいる。
- 謙遜な聖霊は、私の異に反しては動かれない。救いは永遠だが、クリスチャンと言えども、主に背けば、アッという間に闇に陥る。

実にたやすく、救いの確信は失われることを覚えよう。

【罪への認識を深めよう】

- 死に際してゼカリヤは、敵対者の罪の裁きを主に委ねた。徹底したへりくだりこそ、成熟した信仰の確かな証し。
- 信仰者の成長とは、自らの罪の認識の深まりに他ならない。自分の罪を自覚して始めて、救いに至るドアは開かれる。福音を信じて、一方的な恵みによって救われた。しかし間もなく、何も変わっていない自分の現実を思い知らされる。
- 謙遜とは、より深く、自分の愚かさを認めていくことに他ならない。

安易に他者を裁くなら、その自分の愚かさをこそ知ろう

【その愚かさが、まぎれもない罪人の証し】

- 独裁者の狂気に憤り、物欲にまみれた経営者のずさんさを非難する。しかし、聖書が突きつけるのは、あなたはどうかということだ。
- どんな欲望も実現できる、絶大な力を手にしたとして、罪ある人の誰が、主の前に正しさを貫けるだろうか？
私は、ダビデ、ソロモン以上の者だろうか？
- 私はまぎれもなく罪人で、あの人とたいして変わりはない。

自分の罪の現実に向き合うことを、繰り返し聖書は突きつける

【心貧しく、不安に満ちたあなたが、幸いとなる根拠】

- 消えない不安を抱えるあなたは、幸いだ。
その不安は、滅ぶべき罪人でしかない、私の現実を教えてくれる。
不安に満ちた現実を逃れる力も術も、私には何もない。
- だから、神の子なるキリストは、人となって私の罪をあがなわれた。
闇に閉ざされ、罪に満ちた世界を変える力は、主イエスにのみある。
- 私とイスラエルと全人類の罪のために、十字架にかけられ、葬られ、
死を打ち破って勝利された、主イエスを信じ、信じ続けていこう。

約束の主の恵みを力にしよう。マラナタ。主よ来てください。

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。

わたしは、まぎれもない罪人です。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

主イエスは、生きておられ、

わたしの祈りを父なる神よ、あなたにとりなしてくださいます。

主イエスが、王の王として再び来られる時を待ち望みます。

確かな希望を力として、今を歩ませてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」